

平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	潜在看護師再チャレンジ講座実施事業		
法人名	社団法人 堺市医師会		
学校名	堺看護専門学校		
代表者	会長 樋上 忍	担当者 連絡先	平山 本真 【記載 堺市医師会 理事 武田純爾】 TEL 072-251-6900

1. 事業の概要

看護師不足が叫ばれて久しいが未だに一向に改善されていない。過酷な勤務状況が主因となり看護師の離職率が高いことは周知の事実で、いわゆる潜在看護師が55万人いるとも言われている。この看護師不足問題に対し潜在看護師の再就業の促進を図るため平成19年8月に大阪府医師会後援のもと、文部科学省の委託事業として府下の8つの医師会立看護学校が主催となり、潜在看護師再チャレンジ講座を開催した。初日は全校合同で開講式と2講演(医療の動向、看護の動向)を行い、2日目以後は各看護学校に分かれて講義(看護の現場を知る、リスクマネジメント)と技術演習を各々2日間行った。さらに4日間に渡って協力病院にて輸液、ME機器の取り扱い等の実習を行った。最終日には合同で終講式を挙行し、心のケアの講演後修了証書を手渡した。そして今回、受講者の実情把握、今後の課題を検討することを目的として受講前、受講後のアンケート調査を行った。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

本講座に参加した受講者を対象とした。受講前は66名、受講後は64名である。受講前アンケートは①免許の種類②年齢③開講情報の入手方法④潜在期間⑤潜在理由(複数回答)⑥受講理由(複数回答)⑦再就職の希望⑧再就職のきっかけ(複数回答)⑨再就職への不安(複数回答)⑩再就職希望条件で、受講後アンケートは①PR方法②時期③期間④時間⑤場所⑥講演・講義内容⑦技術演習⑧施設実習(1日目、2日目、3日目)⑨修了証書である。なおアンケート内容作成と集計は河内長野看護専門学校が行った。

成績

1)受講前調査

- ①免許の種類 看護師が44名(66.7%)准看護師が22名(33.3%)であった。
- ②受講者の年齢(図1) 31歳～40歳に多く、約半数を占めていた。
- ③開講情報の入手方法(図2) 市の広報誌が47名(86.4%)と最も多かった。
- ④潜在期間(図3) 5年以上、20年未満が41名(62.1%)と多かった。
- ⑤潜在になった理由 子育て(32名)、妊娠・出産(25名)結婚(22名)が主な理由であった。
- ⑥受講理由 知識・技術の再確認(41名)、再就職希望(38名)が主な理由であった。
- ⑦再就職のきっかけ 社会参加したい、子育ての終了、将来(老後)の為など様々であった。
- ⑧再就職への不安 看護技術(25名)が最も多かったが、様々であった。
- ⑨再就職の希望条件(図4,5) 常勤より非常勤、日勤希望が多く、病院より診療所希望が多かった。なお全員再就職を希望していた。

2)受講後調査

- ①講座開催のPR方法(図6) よい、普通が50名(78.1%)であったが、掲載がわかりにくい、と回答した者が8名いた。
 - ②講座の開催時期(図7) よい、いつでもよいが52名(81.3%)であった。
 - ③講座の開催期間(図8) よい、普通が52名(81.3%)であった。
 - ④講座の開催時間(図9) よい、普通が53名(82.8%)であった。
 - ⑤講座の開催場所-開講式・終講式-(図10) よい、普通が43名(67.2%)であったが、遠いとしたものが18名いた。
 - ⑥講座の開催場所-業者の技術演習(図11) よい、普通が62名(96.9%)であった。
 - ⑦講座の開催場所-各看護学校内講義(図12) よい、普通が62名(96.9%)であった。
 - ⑧講座の開催場所-実習施設(図13) よいが60名(93.8%)であった。
 - ⑨講演・講義の内容-医療の動向について-(図14) よい、普通が58名(90.6%)であった。
 - ⑩講演・講義の内容-看護の動向について-(図15) よい、普通が61名(95.3%)であった。
 - ⑪講演・講義の内容-心のケア-(図16) よい、普通が58名(90.6%)であった。
 - ⑫各看護学校での講義-看護の現場を知る-(図17) よい、普通が61名(95.3%)であった。
 - ⑬各看護学校での講義-リスクマネジメント-(図18) よい、普通が60名(93.8%)であった。
 - ⑭業者技術演習(図19)満足、普通が48名(75%)であった。
 - ⑮各看護学校での技術演習(図20)満足、普通が58名(90.6%)であった。
 - ⑯病院実習(図21)満足回答が83(69.2%)であった。
 - ⑰修了証書ある方がよいが39名(60.9%)で無くてもよい16名(25%)を上回った。
- なお、その他気づいた点として「現状の悩みについてのグループワークの場がある方がよかった」「カリキュラム中に就職相談日を設けて欲しかった」「実習時間・演習時間をもっと長くして欲しかった」「再就職後もレベルアップのための講座を開いて欲しい」という意見があった。

②事業により得られた成果

今回のアンケート調査により潜在看護師再チャレンジ講座受講者の①2/3は看護師②31歳～40歳が半数③開講情報の入手方法はほとんどが市の広報誌④潜在期間の多くは5年以上20年未満⑤潜在理由の多くは結婚、妊娠、出産、子育て⑥全員が再就職希望⑦再就職条件は非常勤・日勤希望が多く、勤務先は診療所希望が多いことが判明した。受講後の調査からは①講座開催のPR方法が不十分②開講式閉講式の開催場所が遠い、などの意見があったが講演、講義、実習内容については実習内容については概ね好意的な回答であった。受講前調査に関しては日本看護協会の調査報告2)との比較検討をしてみた。まず年齢が30台中心であることや、潜在理由が子育て、妊娠・出産、結婚であること、再就職のきっかけ、再就職希望勤務場所や勤務形態は共通していた。特に希望勤務場所が病院より診療所が多かったことを考えると、医師会主体のチャレンジ講座開催の重要性を物語っていると考える。再就職への不安では看護技術が最も多かったが、日本看護協会の調査報告でも再就業のための希望研修に関しては看護技術と回答した者が一番多い結果となっており、今後の講座開催を考える上に変参考になった。なお今回の開講情報は市の広報誌や市のホームページ、諸施設での掲示などあらゆる手段を講じたが、入手方法がほとんど市の広報誌であることは注目に値する。

③今後の活用

看護師不足問題に対し潜在看護師の再就業促進を図るため、府下の医師会立看護学校が主催となり、潜在看護師再チャレンジ講座を開催したが、受講者の実情把握、今後の課題を検討するため受講前後のアンケート調査を行った。その結果、受講前調査からは①2/3は看護師②31歳～40歳が半数③開講情報の入手方法はほとんどが市の広報誌④潜在期間の多くは5年以上20年未満⑤潜在理由の多くは結婚、妊娠、出産、子育て⑥全員が再就職希望⑦再就職条件は非常勤・日勤希望が多く、勤務先は診療所希望が多、であった。受講後調査からは①PRが不十分②開講式閉講式の開催場所が遠い、などの意見があったが講演、講義、実習内容については概ね好意的な回答であり、病院実習は満足度が高かった。潜在看護師の再就職支援活動は医療崩壊を食い止めるためにも必要なことであり、調査内容を検討し改善して事業を継続して行くべきと考えた。本要旨は第31回大阪府医学会総会にて発表した。(堺市医師会 学校担当理事 武田純爾)

④次年度以降における課題・展開

受講後調査であるが、まず講座開催のPR方法が悪いとする回答が64名中14名(21.9%)あった。これは開催決定から開催日までが短期間であったことに由来すると思われ、今後の課題と考える。開催時期が8月であったが、これに関しては概ね好意的な回答が多かった。開催場所に関してであるが開講式、終講式を大阪市内で行ったところ、遠いという回答が18名(28.1%)あった。これは運営上致し方ないかと考える。次に業者による技術演習、学校内講義、実習施設の場所に関しては良好な回答が多く、居住地から近いところであることがその理由と考えられた。講演内容についてであるが、特に心のケアに関心が高く、今後の講演を考える上で大変参考になった。技術演習、病院実習は満足度が高く、これは再就職の不安が看護技術にあることに起因するかと考えられた。特に病院実習は満足度が高かったことは多くの受講者が看護技術に不安を抱いているためかと考えられた。潜在看護師の再就職支援活動は医療崩壊を食い止めるためにも必要なことであり、調査内容を検討し改善して事業を継続していくべきと考える。

3. 事業の実施に関する項目

看護師不足問題に対し潜在看護師の再就業の促進を図るためこの8月に大阪府医師会後援のもと、府下の8つの医師会立看護学校が主催となり、潜在看護師再チャレンジ講座を開催した。初日は全校合同で開講式と2講演(医療の動向、看護の動向)を行い3日目以後は各看護学校に分かれて講義(看護の現場を知る、リスクマネジメント)と技術演習を各々2日間行った。さらに4日間に渡って協力病院にて輸液、ME機器の取り扱い等の実習を行った。最終日には合同で終講式を挙行し、心のケアの講演後本講座の修了証書を発行した。

各校の講座実施日

No.	時間	内容	開催校							
			泉大津	泉佐野	河内長野	岸和田	堺	高槻	東大阪	淀川
1	13:00	開講式 講演「医療の動向」「看護の動向」	H19.8/2 大阪府医師協同組合本部ビル							
2	14:00	〈看護の現場を知る〉 ・看護倫理 ・コミュニケーション ・患者心理について	8/8	8/3	8/3	8/3	8/3	8/3	8/6	
3	14:40	〈リスクマネジメント〉 医療・看護事故、ヒヤリハット事例について 院内感染予防、薬について 他	8/6	8/3	8/7	8/20	8/7	8/6	8/7	
4	14:50	〈看護技術演習〉 ボディーメカニクス、体位変換 救急蘇生法、AED機器の使用方法 他	8/8	8/9	8/21	8/24	8/9	8/7	8/8	
5	16:00	〈看護技術演習〉 静脈注射・輸血トレーニング 医療機器の取扱い (テルモ)	8/7 (岸和田)	8/7 (岸和田)	8/10 (堺)	8/7	8/10	8/9 (淀川)	8/10 (堺)	
6		〈病院見学実習〉 (内容) 病院の概要	8/9,10 (岸和田)	8/20	8/17 (岸和田)	8/8	8/16 AM	8/20	8/8	
7		〈病院見学実習〉 病棟の概要・特徴 電子カルテについて	8/21	8/21	8/24	8/9	8/16 PM	8/21	8/9	
8		〈病院見学実習〉 看護記録について 輸血ポンプ、シリンジポンプの取 扱い、ME機器、吸引 等	8/22	8/22	8/28	8/21	8/17 AM・PM	8/22	8/20	
9		〈病院見学実習〉	8/23	8/23	8/29	8/22	8/29	8/23	8/21	
10		講演「心のケア」 終講式	H19.8/30 大阪府医師会館							
講座受講者(名) 計 64名			8	3	10	9	15	10	3	

5看護技術演習の()は開催校

講座受講者数 (H19.8)

(名)

講座開催施設名	申込者数	受講者数	内訳	
			看護師	准看護師
泉大津医師会附属看護高等専修学校	8	8	7	1
泉佐野泉南医師会看護専門学校	3	3	2	1
河内長野看護専門学校	13	10	8	2
岸和田市医師会看護専門学校	9	9	7	2
堺看護専門学校	21	15	9	6
高槻市医師会看護専門学校	10	10	6	4
東大阪准看護学院	4	3	1	2
淀川区医師会看護専門学校	6	6	3	3
合計	74	64	43	21

(事業の特色、事業実施にあたり工夫した点等を記載)

今回、受講者の実情把握、今後の課題を検討することを目的として受講前、受講後のアンケート調査を行ったが、最後に講座受講者の医療機関への再就業状況について平成20年1月24日時点で調査を実施した。再就業決定者35名、再就業予定者22名であり、修了証発行者64名中56名(89.0%)が就職することになり、十分な復職効果があったと考えられた。

就業状況調査 (H20.1)

(名)

講座開催施設名	受講者	平成20年1月24日時点調査		
		就業決定数	就業予定	不明
泉大津医師会附属看護高等専修学校	8	4	4	0
泉佐野泉南医師会看護専門学校	3	1	1	1
河内長野看護専門学校	10	6	2	2
岸和田市医師会看護専門学校	9	4	5	0
堺看護専門学校	15	11	4	0
高槻市医師会看護専門学校	10	5	5	0
東大阪准看護学院	3	2	1	0
淀川区医師会看護専門学校	6	2	0	4
合計	64	35	22	7